

令和7年度第3回唐津市行政改革推進会議 会議概要

(令和8年1月28日開催)

1 議題と主な意見

(1) 前回の会議結果の確認について

(2) 市民センターのあり方方針について

- 今後、市民センター庁舎は複合化していくため、市民センター庁舎単独では更新しないという表現があっても良かったように思う。
- 方針に基づく取組みは、期限を決めて計画的に取り組んでほしい。
- 方針は、概ね5年ごとに見直すということだが、こういった行政改革に関連する方針はある程度短い期間で見直しを行ってほしい。次回の見直しでは、「統合」を前提にするなどもう一步踏み込んだものを期待したい。

(3) 唐津市行財政改革プラン2025について

- 基本理念にあるとおり、「スピード感をもって」進めてほしい。
- 各取組みは、期限を決めて計画的に取り組んでほしい。

(4) 第2次唐津市DX推進計画(案)について

- DX施策を幅広く進めるにあたっては相応の経費が必要となることから、課題やボトルネックを明確にした上で、行政評価のように優先順位を意識した取組みが重要である。また、これまでの取組みについては、実施内容だけでなく、具体的な成果や効果を示す必要がある。
- DXの導入自体が目的とならないよう、利用者層に応じた施策の検討が必要であり、高齢者などデジタルに不慣れな方への配慮や支援が重要で、利用者にとって分かりやすい導線や1度使って「できた」という経験が次の利用につながる。
- 市民センターのあり方方針に基づく取組みについては、DXの推進がポイントになると思う。DXの推進によって、市民が市役所に来庁せず、自宅などから手続きができるといった取組みを進めてほしい。
- DXを推進する一方で相談など人とのつながりを大事にする方もいるので、そういった面についてどのような考えなのか記載してみてもどうか。
- 例えば、公共施設予約システムについては、一部、紙申請をしないといけない部分があった。こういう場合は利用が進まないのでは、完全デジタル化を検討すべき。

(5) 公共施設の使用料について

- 唐津市が観光客の誘客を推進する立場ならば、使用料を安くして観光客を誘客するという考え方がある一方で、採算性の観点からは使用料を高くするという考え方もあるので、「どうしたいのか」意図を明確にした方が良い。
- 海外の観光地では市内、市外など二重価格を設定することは基本的な考え方である。公平性の観点からも市内利用者と市外利用者で使用料の差をつける必要があると考える。また、市内、市外の基準の明確化については他自治体の取り扱いを参考に、利用の公平性を踏まえて検討していただきたい。
- 利用の予約については、実際に利用するか否か不明確な段階で「とりあえず予約」をするケースがあるように思う。施設の有効利用について考えていただきたい。

2 今後の対応

会議の結果は市のホームページで公表するとともに、関係各課と共有し、今後の取り組みの参考とする。